

JAL 闘争を支える京都の会 News No.20

京都市東山区今熊野南日吉町 17 FAX:075-531-3856 E-mail:komai123@kfa.biglobe.ne.jp

JR・警察一体となった

JAL 闘争宣伝弾圧

反撃の「支える京都の会」駅前宣伝成功

5月28日、JR京都駅前で「JAL 闘争を支える京都の会」の宣伝行動を「支える会」の会員やきょうとユニオン、郵政産業労働者ユニオン、昭和シェル労組の参加も得て実施しました。これは5月20日、同場所で開催した「日本航空の不当解雇撤回をめざす京都支援共闘会議」(事務局・京都総評)の月例宣伝行動がJRと警察の一体となった弾圧で初めて中止させられたことへの反撃の意味もこめ、5月20日を超える仲間の結集で敢然と成功させて終わりました。



この場所は三年前まで国鉄闘争で二十一年間、百九十二回の月例宣伝行動を国鉄京都支援共闘が実施してきたところで、いくらJR側と激しく争うことがあっても権力導入での弾圧で中止などありえませんでした。宣伝開始時の多人数のJR側のピケも従来はありませんでした。

5月20日の定例宣伝では、京都駅前のJRの社有地と一般歩道の境界ラインに7~8人のガードマンが最初からピケを張り、JR駅助役が指揮を取って、警察が手を下せない社有地に宣伝部隊が移動できないようにし、複数の制服警察官がなぜか宣伝開始間もなく出現しました。



(ウラ面へ続く)

一昨年七月からのJAL宣伝行動では先月22回までの宣伝行動で、いつもJAL稲盛和夫名誉会長所属の京セラ本社総務担当の姿がキャッチされていました。

昨年末の安倍政権発足以来、末端の警察でも「デモ申請書の書き方がやたら厳密にうるさくなった」(滋賀)「民間会社でストライキやったら警察が会社ガードマンよろしく現れ、支援のユニオン役員を不当逮捕した」(兵庫)など全国で聞かれます。JRや京セラなど大会社の経営者・資本家の意図を体して妨害する警察権力には、断固ひるんではない。

「ノーモアJR尼崎事故、命と安全を考える4.20集会」でJAL原告団もアピールしたという記事を掲載し、JAL稲盛名誉会長の「利益なくして安全なし」の発言を批判する内容のビラを、JAL原告団・小森啓子さんの元気なマイク発言で道行く市民に訴えながら、雨の中の宣伝行動を整然と力強く実施しました。その後、参加者は三条京阪へと移動し、市民にJAL不当解雇撤回闘争への支援を訴えました。



B787 原因不明のまま運行

日本政府は、バッテリー不具合の原因が特定されていないことを認めながら、3重の再発防止策が図られたとして、B787の運行再開を承認しました。

バッテリー不具合の根本原因がわからない中での運行の再開は、旅客にとっても乗員にとっても不安が残ります。

私たちは、徹底した原因追及を求めると同時に、情報を公開し、企業任せでなく、国が責任を持って独自にチェックする制度にすべきと考えます。

～ 私たちは絶対安全を求めます～

